



ミトラ社長

尾形 優子さん

妊婦や胎児の医療情報などを管理する電子カルテ「ハローベイビープログラム」の販売などを手掛けるミトラ(高松市)。2009年には、起業家らを表彰する「ジャパン・ベンチャー・アワード」の起業家部門で中小企業庁長官表彰を受賞した。尾形優子社長に電子カルテの開発や普及への思いを聞いた。



父が大学の化学の教授で、その影響もあって工学部に進んだ。大学卒業後は研究室に入り、がん治療にも使われる加速器について研究。結婚を機に香川に来て、しばらく専業主婦をした後、コンピューター会社で働き始めた。研究を続けたいという気持ちもあったが、ビジネスの面白さを感じたことが方向転換するきっかけになった。

ドリーマーズ

～地方時代のリーダー達～

医師と患者をつなぐ役に立てれば

1998年、システム制作会社に勤めていた時に、産官学が共同で、四国4県の電子カルテデータをネットワークでつなぐ事業に携わった。そこで開発されたのが「ハローベイビープログラム」の基になる周産期管理ソフトだった。

妊娠中の体調変化などは他人に説明しにくい。だからこそ会社を立ち上げ、ソフトウェアを買い取って販売しようと考えた。初めのうちは全く売れずに苦労したが、あきらめかけていた時に千葉県の病院から声がかかり、2005年に導入。今では80件ほどまで増えた。

昨年度には、県が申請した、遠隔医療システムを活用した「かがわ医療福祉総合特区」が政府から指定を受けた。規制緩和によって、遠隔医療や処方箋の電子化なども進み、医療データの共有も広がるだろう。

今後は、患者の手にデータが届き、自分で健康を管理することも必要になるだろう。病気の治療は、患者が医師と一緒に取り組まなければいけない。そこをITが助けることができればいい。離れた人と人をつなぐ役に立てればと思っている。

◇プロフィール

おがた・ゆうこ 京都市生まれ。京都大大学院工学研究科原子核工学専攻中退。結婚・出産後、システム制作会社などを経て02年にミトラを設立。